

第27回通常総会リアル開催



いしかわ 農業法人だより

Ishikawa
Agriculture
Corporation
Magazin

6月3日に第27回通常総会が開催されました。今回は、ホテル日航金沢にてリアル総会となりました。北陸農政局局長 石川善成様、石川県農林水産部部長 石井克欣様をはじめ多くのご来賓の出席を賜り全ての議案が承認されました。

また、総会に先立ち農業経営セミナーとして農林水産省経営局金融調整課長中尾学氏より「我が国農政の動向と農業金融について」の講話がありました。昨今の厳しい経営環境において多くの学びがありました。総会終了後には、「テーマ」資料の高騰に係る戦略的な対策について」についてパネルディスカッションを開催しました。パネラーは、株式会社農業生産法人田仲農場代表取締役社長 田仲利彰氏、株式会社ヤマザキライズ代表取締役 山崎能央氏、全国農業協同組合連合会西日本営農資材事業所長 田中達也氏、当協会の技術経営委員長（農） アグリスターオナガ濱田栄治氏、コーディネーターは、石川県農業法人協会会長理事 佛田利弘が務めました。多くのコスト削減の取り組みを学ぶことが出来ました。その多くが根本からの改革で今後の経営の参考になりました。

6メーカー8機種が実演



農業用ドローン6メーカー実演会

技術経営委員会（濱田委員長）では7月16日に志賀町（株）ゆめうららの圃場において現地研修会を行いました。6メーカー8機種が一同に揃う実演会は、稀有な機会でした。DJI・T30 N T T eドローン・AGC101 飛助mini & 飛助DX イセキ FLIGHT AGV2 XAG・P30 SKYMAT IX・F1 それぞれにコンセプトがはっきりしていて最近のドローンの方向性を感じました。まずフル装備のドローン、自動飛行で散布量も多く飛行時間も長い。ネットワーク重視のドローン、稲の葉の窒素含有量から散布量を制御出来る。低価格重視のドローン、最低限の装備で自動飛行等は出来ないが、価格は安い。リースを設定出来るドローン、インシヤルコストを抑えて導入を易くしている。丈夫なドローン、樹木や電線にぶついても壊れにくく丈夫。参加会員も自社の圃場や考え方に照らし合わせておおいに興味を持ったようです。

馳知事を表敬訪問

7月4日に馳知事を表敬訪問しました。昨今の資材高騰への対応と農業情勢について報告をしました。



北信越ブロック交流会

8月2日に福井県にて3年ぶりに北信越ブロック交流会が開催。リアルな意義深い交流になりました。



会長コラム

昨今の資材高騰やコロナ消費減退の影響は甚大な様相を呈してきました。政府や石川県、県下市町でも価格補填の支援策が講じられております。しかしながら、情勢は終息する兆しは不透明で、今後この状況が拡大する懸念があります。

石川県農業法人協会では、10月5日に四役が北陸農政局と資材問題を中心に意見交換を行い、経営の実情を訴え、課題解決に向けて意見交換をすることとしています。

さらに、本来、資材高騰だけの課題だけではなく、次に農業経営を取り巻く論点を記述してみました。ぜひ、協会会員、賛助会員、アグリサポート会員の方々と意見交換を重ね、微力ながら課題解決の一助になればと考えています。

農業経営を取り巻く論点

◇日本農業は大きな変革点にあり、課題は次の通りではないかと考えます。

①資材高

肥料や飼料、資材等のインフレに農産物価格転嫁が大きく劣後し、経営の収支やキャッシュフローに大きな影響を及ぼし、経営の持続が困難になっており、離農により生産抑制が働く恐れがある。

②温暖化等環境対策

ゲリラ豪雨・台風の大規模化・高温化等の気象変動の動きが極めて激しくなっており、カーボンニュートラルやマイクロプラスチック排出抑制等の取組が急務となっているが、農業分野では具体化が遅延している。

③人材確保養成

少子高齢化の影響を受け始め、特に採用雇用環境に競争力が弱い農業分野においては、人手不足や技能者が不足していることから、機械化や自動化省力化等を進めることは喫緊の課題となっている。特に、技術と経営の双方のスキル（MOT力）を有した人材の育成が急がれる。

④価格形成力確保

農業分野では、安全な農業生産や環境に配慮した栽培に取り組んでいるにもかかわらず、その取組が価格転嫁出来ていない。

委託販売のシステムをどのように改変することにより、価格形成力を高められるか、マーケティングの形成を具体的にを行う取組が必要である。

⑤イノベーション

上記の各課題を解決し、ブレークスルーするためには、技術やシステムのイノベーションが必要であり、そのシステムが不可欠である。

熱中症にご注意ください

9月に入り、暑さがより一層強くなる季節となりました。連日熱中症等に関連するニュースが多く報道されております。

これまでの作業で疲労が蓄積されているかと思えます。喉が渇いていなくても小まめな水分補給、涼しい場所で適宜休憩を取る等、体調管理に十分に注意しましょう。

また、今月から収穫作業がスタートすることから労働安全にも努めましょう。

本だよりの配布対象
会員、賛助会員、アグリサポート
会員、各関係機関、会員の皆様へ
「いしかわ農業法人だより」の
メール配信を希望する方は、協会
事務局の吉田・連・工藤までご連
絡お願いいたします。

吉田：syogo-y@inz.or.jp
連：muraji@inz.or.jp
工藤：rinkudo@inz.or.jp